

東大阪から組織・人づくりの 新たな5Sを全国に

ベル 奥 斗志雄

製造業がひしめくモノづくりの街、東大阪。この地で足利流5Sの教えに共感した企業が連携し、2016年7月、「大阪3S実践会」を発足させた。また、今年5月には足利5S学校の兄弟校として「一般社団法人きらめく5S学校」を開校。筆者はそれら2つの設立・運営を舵取りし、「大阪3S実践会」では代表幹事に、「きらめく5S学校」では理事長に就任させていただいている。それらの設立の経緯や運営体制、今後の展望などを紹介したい。

足利流5Sとの出会い

大阪3S実践会を設立することになった本来のきっかけは、2016年2月に財団法人関西生産性本部・関西IE協会主催で開催された「関西5S大会」の発表で足利流5Sを知ったことである。

それまで当社は長年、さまざまな試行錯誤を繰り返しながら、3S・5S活動に取り組んできた。

ビルメンテナンス・清掃事業を展開する当社にとって、人づくりは経営の根幹を支える大切な事項だ。当社が顧客に提供するのは、単に清掃や警備、鳩対策施工といったサービスではなく、「気持ちがいいな、安全だな、安心だな」と感じていただける環境である。掃除に来る人がいつもさわやかで明るいと、周囲も明るくなる。守衛が気持ちよくあいさつをし、管理に目を光らせていると、ビルで働く人たちの心は明るくなるし、安心していただける。当社はそのような見えない環境を提供している、いわば「環境改善企業」なのだと考えている。

そのために必要なのは人を育てることだという

思いから、かねてから3Sには関心があった。時間を守る、あいさつをする、礼を尽くす、といった基本的なことを育てるなら、基礎となるのは3Sだ。整理し、清掃し、整頓して、決めたことを守っていく。そのような組織風土を根付かせる必要があると考えていた。

そうして、さまざまな現場を見学し、自社でもやってみるが、どうも長続きしなかった。整理・整頓をして一時的には片付くが、すぐに停滞する。いつまでもトップダウンで、社員主体にはならない。どうやったら「人づくり」につながる3Sが実現するのかと頭を悩ませる日々が続く中、足を運んだのが、冒頭の「関西5S大会」だった。

働く人が主役の足利流5S

その「関西5S大会」には、足利流5Sを实践されている石井機械製作所(栃木県足利市)が登壇されていた。話の内容は、それまで筆者が認識していた3S・5Sとはまったく異なるものだった。ルールを決めて躰(しつけ)から入る管理手法ではなく、働く人に焦点を当て、人が主体となり、各々が良さを発揮して5Sを实践していく、まさに人づくりにつながる、人間性を尊重した5Sだった。

会場には、足利流5Sの創始者である木村温彦氏に学び、現在は、きむら5S実践舎で中小企業を中心に5S改善指導にあたられている鈴木浩也氏がおられた。すぐにあいさつをし、「お話を聞かせてください」と申し出たのが、すべての始まりだった。

写真1 大阪3S実践会の様子。座学で3Sの基礎を学ぶ



写真2 大阪3S実践会での現場視察。持ち回りで企業の改善現場を説明する



なぜ企業の連携組織をつくるのか

この足利流5Sとの出会いが「大阪3S実践会」につながるわけだが、そもそもこの実践会には、実は前身がある。上述のように、かねてから3Sの重要性を意識し、実践もしていた筆者は、数年前から「1社単独でするよりも、複数社で切磋琢磨しながら勉強したほうがいい」と強く感じるようになっていた。当社は、経営品質向上を目指すビルメンテナンス業者の集まり「日本ビルメン経営品質協議会」という連携組織にも参画している。そこでの経験を通じて、企業が連携するほうが社員間が切磋琢磨し、意識向上や定着につながることを身をもって体感していたのである。

2013年7月には、東大阪青年経営研究会の仲間で、かねてから深いおつきあいをしていたユタニ工業とタナカファクトリー（ともに東大阪市）に声をかけ、3S・5Sの勉強会を始めた。この集まりが「大阪3S実践会」の前身になる。活動内容は、コンサルタントの指導を受けつつ、参加企業の社内を交代にウォッチングし、社員が5Sの取組みを発表（写真1、写真2）。質疑応答や意見交換の後、各社員が集まって懇親会を開くというものだ。これが非常に盛り上がった。

1社だけで行くと、他社の目がないので改善活動は停滞する。複数の会社が集まることで、「来月は自社がウォッチングされる」となれば、自ずと改善箇所を探し、ほめられようと努力する。発表や報告の仕方も工夫するようになり、そのこと自

体が社員の育成になる。お互いに学び合うことで、社内に定着しやすい。われわれはサービス業だが他の2社は製造業なので、他社と交流する機会が少なかったこともあり、特に社員間交流は大変盛り上がった。

ただ、2年ほど続けると、活動そのものがマンネリ化してきたのも事実だ。せっかく連携の土台ができたのだから、どうすれば次のステップに飛躍できるかと考えていたときに出会ったのが、足利流5Sだったのだ。

「大阪3S実践会」設立へ

さっそく2016年6月、鈴木氏にお願いし、われわれ3社の代表とリーダー社員の一行で、足利流5Sの実践企業である菊地歯車、足利印刷を見学させていただいた。そこでは、社員自らが知恵を使って5Sに取り組んでいることを肌で感じる事ができ、足利流5Sを実践していく決定的なきっかけになった。そして、3社がともにきむら5S実践舎の指導を受けて実践していく場として、「大阪3S実践会」をスタートさせたのだ。

会の枠組みはいたってシンプル。自分たちで会費を払い、会員企業は、月1回の「指導会」で講師の個別指導が受けられる。また、参加企業が3Sの取組みを報告し合う定例会（月1回）のほか、3Sの先進企業を見学できる見学会（随時、参加費別途）がある。

会員企業の経営者・リーダーが皆、成功企業を